流山市議会第４回定例会のご報告　日本共産党流山市議団

2019年 迎春 政治変え 暮らし守る年に!



新年おめでとうございます。
今年は4月に統一地方選挙が、7月に参議院選挙があります。
臨時国会で安倍内閣は、強行採決をくりかえしました。選挙で政治を変えてこそ、暮らしは守れます。
開発優先から暮らし・福祉・教育へ…市政の改革めざして全力をつくします。みなさんのご支援をよろしくお願いします。



救急医療 「市負担の増額を検討」と答弁

年平均、赤字1億円の不採算部門として経営を圧迫し、救急医療から撤退する病院が増えています。市内でも、平日夜間の小児救急医療を担う病院では、維持さえも厳しくなっています。日本共産党は「小児救急体制の確保を民間任せではなく、市の責任を果たせ」と要求しています。

9月議会に議会全体として「夜間小児救急への予算増額の検討」を市長に要望したことを踏まえ、取り組み強化を求めた日本共産党の質問に「来年度予算編成に向けて市負担の増額も含めて検討」との答弁が。一歩前進です。

今、市民団体が「救急医療の継続・充実を求める陳情」署名を推進しています。ぜひご協力ください。
http://www.nagareyama-jcp.jp/



多子世帯の負担軽減を!! 条例提案

子どもが多くいる『多子世帯』では、「お米30㌔あっても3週間もたない」などの声が聞かれ、さらに国民健康保険の加入世帯では、赤ちゃん・子ども一人増える毎に保険料が２万4700円増加します。

日本共産党は、18才以下の子どもが３人以上いる世帯の負担軽減を求め条例案を提案。対象は266人（昨年10月時点）、経費は470万円ででき、他６市で実施中です。一般会計554億円の本市ならできる施策です。実現すれば、18才以下の子どもが５人いる世帯で７万4100円の保険料減額になります。世論と運動を広げ、勝ち取りましょう。

8年間の運動実る! 就学援助 4月から拡大へ

2010年からＰＴＡ会費・生徒会費・クラブ活動費にも援助拡大が認められた就学援助制度。議会内外での８年間の運動が実り、今年４月から実現します。しかも対象者の所得基準は、13年度以降『維持』していることから、県下でも先進的な制度水準となります。

給付制奨学金の創設を

他県・他市で広がっている返済不要の『給付制奨学金』。流山市青少年主張大会で昨年、市内高校に通う生徒が「返済の負担が少ない奨学金をもっと広くいき渡らせてほしい」と訴えました。また看護学生が「他市にあるのに流山市にはない」と奨学金創設を要請しました。

日本共産党の質問に「近隣市を調査し研究したい」と答弁。これまでの「考えていない」という答弁から『一歩』前進です。さらに前進させ、実現しよう



流山民報
2019年　新春号　NO.198号

流山市加4-1688
TEL／FAX (7157) 6140
日本共産党　giindan@nagareyama-jcp.jp
流山市議団　http://www.nagareyama-jcp.jp/
流山市議会事務局 TEL (7158) 1111

ご意見・ご要望をお寄せください



昨年11月6日、井崎市長に来年度予算要望を提出
（左から、小田桐たかし議員、植田和子議員、徳増きよ子議員、いぬい紳一郎議員）

31学級以上の小学校 全国は2%、市内は35%

一人ひとりの児童生徒に寄り添う学校環境を整備するべく、国では31学級以上の小・中学校に『適正規模』を求め、改善を進めてきました。その結果31学級以上の学校は、全国で小学校２%、中学校0.4%になっているのに、流山市では今後、小学校35%、中学校15%に増加…全国的には非常識な事態です。

住民誘致には熱心でも、この地で生まれ育つ子どもの教育・発育には冷遇…市政の優先順位が間違っています。

市長の多選の弊害…次々と 政治を正す力を大きく

子どもの学習・生活支援 野田市の1/12、柏市の1/6に抑制

世界的に子どもの貧困が深刻化している日本。2015年に法律も整備され、全国で子どもの学習や生活、相談への支援の輪が広がり、本市でも今年度からスタートしました。

自治体	対象者数	予算
流山市	**51人**	**1400万円**
野田市	600人	3643万円
柏市	325人	3996万円
松戸市	330人	8020万円

しかし、対象者を中学３年のみとし、就学援助利用世帯等を除外したため、対象者が極端に少なくなっています。フルタイムの仕事を始めたお母さんからは「まじめに働けば損をするような社会はおかしい」「他市では制度を利用できるのに…流山から出て行けと言われているみたい」と怒りの声が聞かれます。

2018の実績

①産後ケアや妊婦面談など支援体制を強化。
②保育園と学童保育の増設、職員の処遇改善。
③就学前障がい児の支援強化へ「つばさ学園」定員枠拡大。
④全ての小中学校の教室にエアコン設置が完了。
⑤サポート教員を増員し、子どもの学習支援を創設。
⑥就学援助制度の対象項目を追加し、入学準備金は前倒し支給。
⑦小中学校校舎等の劣化診断を実施・公表。
⑧非婚ひとり親家庭への負担軽減。
⑨生活保護世帯の児童育成手当、事務の誤り認めさせ、遡及し返還へ。
⑩麻疹・風疹の予防接種に助成拡大。
⑪思井地区の緑地保存に向けた千葉県との協議を開始。
⑫年金で入れる多床室の特養ホームを前倒し計画。
⑬地域包括支援センターが北部地区に増設。
⑭公共施設の危険なブロック塀を改修、ブロック塀の撤去に補助金創設。
⑮消防本部移転に向けた用地測量。

市議会 ねほり・はほり

●2年連続、期末手当引き上げ?! 自分に甘くないですか

議員の期末手当が、0.05カ月分（一人当たり２万7495円）引き上げられることに。一般質問の時間を削減しながら２年連続です。「アベノミクスの実感なく市民生活は大変」と日本共産党は反対しました。来年４月の選挙を前にこんな議員でいいの？

●県議会で賛成、市議会では反対 …どっち!?

重度障がい者への医療費助成は、精神障がい者を千葉県は対象外に。その分1200万円を本市が肩代わりしています。今年６月、県議会で対象拡大を求める請願に賛成した自民・公明。一方、市議会では県知事への意見書に反対しました。市民は戸惑うばかりです。

会派	日本共産党				流政会								自由民主党				市民クラブ					公明党						
議員名 ○：賛成 ×：反対 ー：棄権 欠：欠席 ※議長は表決に参加しない。	乾 紳一郎	小田桐 仙	徳増記代子	植田 和子	森 亮二	青野 直	笠原 久恵	近藤 美保	坂巻 儀一	野田 宏規	大塚 洋一	石原 修治	中村 彰男	海老原功一	中川 弘	加藤 啓子	藤井 俊行	西川 誠之	楠山 栄子	森田 洋一	西尾 段	秋間 高義	斉藤 真理	戸辺 滋	野村 誠	菅野 浩考	阿部 治正
議員期末手当を引き上げる条例（可決）	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ー	○	×	×	○	○	議長	○	○	○	○	×
市長の退職手当の支給停止等を求める陳情書（不採択）	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		×	×	×	×	○
多子世帯の国保料軽減の条例改正（否決）	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		×	×	×	×	○
重度心身障がい者医療費助成の対象拡大を求める意見書（可決）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	○		×	×	×	○	○
補聴器のさらなる普及と制度等の充実を求める意見書（可決）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	○		×	×	×	○	○